

Hello! FUJISEI

No. 114

高齢者の要介護者等数は急速に増加しており、特に75歳以上で割合が高くなっています。まさに、喫緊の課題となっている高齢者の介護の状況について、厚生労働省の「平成24年版高齢社会白書」からみてみましょう。

介護が必要になった主な原因についてみると、「脳血管疾患」が最も多く、以下、「認知症」「高齢による衰弱」「関節疾患」の順となっています。とりわけ、男性の「脳血管疾患」が特に多くなっています。

介護問題は喫緊の課題！

自宅での介護希望も同居者に大きな負担

要介護者等からみた主な介護者の続柄をみると、6割以上が同居している人が主な介護者となっており、その内訳は、配偶者、子、子の配偶者の順となっています。性別では女性が約7割と多くなっています。

同居の主な介護者の年齢は、男性では64.9%、女性では61.0%が60歳以上であり、また、いわゆる「老老介護」のケースも相当数存在しています。

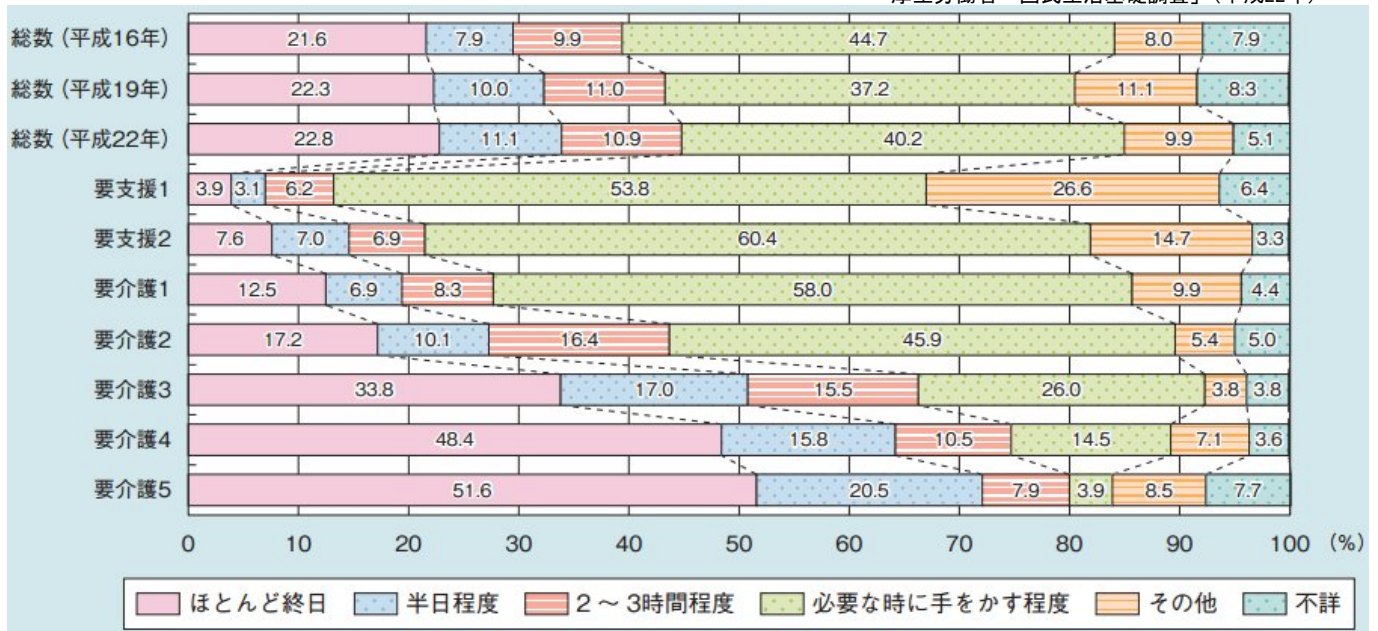
同居の主な介護者が1日のうち介護に要する時間は、「必要な時に手をかす程度」が40.2%と最も多い一

方で、「ほとんど終日」も22.8%となっている。要介護度別では、要支援1から要介護2までは「必要な時に手をかす程度」が最も多いのですが、要介護3以上では「ほとんど終日」が最も多く、要介護4以上では約半数がほとんど終日介護しています。

「日常生活を送る上で介護が必要になった場合に、どこで介護を受けたいか」では、男女とも「自宅で介護してほしい」が最も多いですが、男性のほうが自宅での介護を希望する割合が高くなっています。

同居している主な介護者の介護時間（要介護者等の要介護度別）

厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成22年）



(注)「総数」には要介護度不詳を含む。